

地域の特性を活かした住まいとものづくり

神奈川県立小田原城北工業高等学校

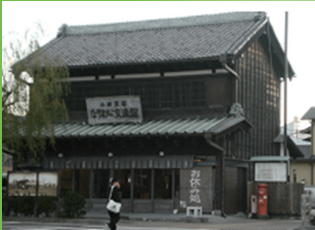
実施学年：高校3年

実施教科：課題研究

生徒数：31人（1学級）

実施時間数：27時間（3時間 × 9回）

①小田原の伝統建築構法の出し桁造りと地元の間伐材を利用した小田原ちようちんをモチーフにしたベンチ



②見学及び市担当者からの現場説明



③市農政課の説明及びミーティング風景



④作業風景



学習のねらい

- ・地域の伝統的建築構法（出し桁造り）を理解する。
- ・地域の伝統を活かしたこれからの住まいを考える。
- ・高校で学んだものづくりの技能・知識を活かしてまちづくりに取り組む。
- ・林業再生と地域活性化に向けた提案を行う。

学習活動

- ・現存する小田原の伝統的建築構法を活かした建物の見学及び調査。
- ・伝統建築物の保存、活用を担当している小田原市産業政策課の担当者からの現状説明および打ち合わせ。
- ・市内の間伐材の活用に取り組んでいる小田原市農政課の担当者との現状説明および打ち合わせ。
- ・小田原市の取り組み事例の現場見学。
- ・ベンチの制作作業。
- ・設置場所の一つである市役所での調査、打ち合わせ。
- ・ベンチ設置候補である市管轄施設の見学および打ち合わせ。
- ・設置場所への搬入、寄贈。

準備品

木材、ノミ、木材掘削器、塗料、ニス、デジタルカメラ、パワーポイント

実施場所

木材実習室、視聴覚室、小田原市内見学場所（小田原宿なりわい交流館、一夜城公園、小田原城天守閣、清閑亭、小西薬局、下田豆腐店、だるま料理店、寿庵、江嶋茶舗など小田原市市街）

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>木材実習室</p> <p>1-3 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の概要説明 小田原の伝統建築についての説明（伝統工法の出し桁造りについての説明。小田原市の観光文化施設である「小田原宿なりわい交流館」を具体例にした説明）。 	 <p>小田原宿なりわい交流館</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住んでいるまちの伝統建築工法についてはじめて知った様子であった。
<p>小田原宿なりわい交流館 及び 小西薬局</p> <p>4-6 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現場見学 小田原市において伝統建築物の保存、活用を担当している市役所産業政策課の担当者からの現状説明、その後、現在、伝統建築物を活用して商売をされているお店「小西薬局」の見学。 	 <p>担当者から説明を聞いている生徒</p>  <p>小西薬局の建物内の見学</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実際に現物を見学して、伝統工法に興味を持ったようだった。また説明を受けている際、メモをとったり、質問をしたりして意欲的に参加していた。
<p>ミーティング室</p> <p>7-9 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 説明及びミーティング 小田原市内の間伐材の活用に取り組んでいる小田原市農政課の担当者との現状説明および打ち合わせ。 	 	<ul style="list-style-type: none"> 住まいを考えると、環境問題も密接に関係していることが理解できた。特に自分たちの暮らしている街の取り組みを聞いたので具体的なイメージがふくらんだようであった。
<p>一夜城公園</p> <p>10-12 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> トイレの建築現場の見学 一夜城公園に建築中の間伐材を利用したトイレの工事現場見学。 		<ul style="list-style-type: none"> 実際に間伐材でつくられたトイレを見学して、間伐材と思えない木目の美しさに驚いていた。

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>木材実習室</p> <p>13-18 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ベンチ制作 今までの説明や現場見学を通して自分たちでできるすまいの空間と構成について議論し、作業に取りかかった。具体的には間伐材を利用して小田原の伝統である「小田原ちょうちん」をモチーフにしたベンチを制作することになった。 	 <p>ベンチ制作の作業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最初はホームセンターで購入した市販の材を使ったが、環境に配慮して小田原の間伐材を利用することにした。生徒は「節が多く手間も掛かったが、やりがいもある。やはり小田原産の木材で作れるといいですね。」と話した。
<p>小田原市役所</p> <p>19-21 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市役所での採寸調査 間伐材を利用したベンチが市役所等の小田原市の管理する施設に設置されることになり、市役所のホールで採寸を行った。 	 <p>採寸作業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市役所の既存のベンチが設置されているホールに自分たちが制作したベンチが置かれることになり、「市の施設を訪れる多くの方に利用してほしい」と話した。
<p>清閑亭</p> <p>22-24 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小田原の寄贈施設への仮設置 寄贈予定の施設に仮置きして、高さやサイズを確認した。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒は財界人により明治期に別荘としてつくられた歴史的建造物である、清閑亭の豪華なつくりにおどろいていた。
<p>小田原市役所等</p> <p>25-27 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市長への贈呈 制作したベンチ10個のうち4個を小田原市に寄贈した。のこり6個は小田原市の出し桁工法を活かして事業をされているお店（小西薬局、下田豆腐店、だるま料理店、寿庵、江嶋茶舗）に寄贈した。 		<ul style="list-style-type: none"> 市長からは「丁寧な仕事が見て取れる。小田原を拓く若い力が着実に育っているのがうれしい」という言葉を頂きました。

生徒の作品



先生の声

実施に当たり工夫した点
苦労した点

- フィールド調査（現場見学および調査）を重視した
- 地域の大人（市役所の担当職員、地域の事業者）と生徒との対話の機会を多く設けた。
- 頭で考えるだけでなく、実際に手や体を動かし現物やモデルを使って課題解決を図った。
- 地域の伝統や歴史を尊重する授業展開とした。
- 環境問題も含めて住環境を捉えるようにした。

児童・生徒の反応

- 自分たちの暮らしている街の歴史や伝統を体感できた。
- 歴史や伝統を活かした現代の生活を理解できた。
- 工業高校生によるまちづくりを展開できた。

教師の変化
（担当、担当外を含めて）

- 小田原市長を始め地域の方々が惜しみなく生徒と向き合ってくださいました。
- 地域の歴史と伝統の学習や環境学習を含め総合的に「すまいと社会」について学ぶことができた。
- 普段接することのない地域の方々や役所の方々と接して、地域を理解でき、地域に貢献できた。